

ISDE ポルトガル レースレポート

KTM 東海 スーパーバイザー 中嶋 宏明

2019年11月2日(土)～11月18日(月) / レース日程: 2019年11月11日(月)～16日(土)

開催場所: ポルトガル・ポルティマン

大会: 第94回 FIM インターナショナルシックスデイズエンデューロ (ISDE)



今回、私は ISDE2019 Japan World Trophy Team の監督として、参戦することとなった。トロフィーチームの選手は、釘村 忠、渡辺 学、馬場 大貴、前橋 孝洋の4名。釘村、渡辺、馬場は、モトクロスの元 IA ライダーで、中にはファクトリー経験を持つ選手もいる。日本からはトロフィーチームに加え、クラブチーム 2 チームも参戦したので、各チームのメカニックやサポートを合わせ、総勢 20 名程の日本選手団となった。

私のトロフィーチームの監督としての重要な役割は、チームをまとめることはもちろん、毎日変わるレースの情報を収集し、チームに正確に伝えるということ。その情報を収集するための場である、「ジュリーミーティング」に毎日出席することが、私のレース中の毎日の最重要任務だった。「ジュリーミーティング」とは、各国代表のチームマネージャーが集まりミーティングを行う。そこでは、その日の結果や翌日の変更点などが伝えられ、レースの内容について細かく指示が出されるため、レースに参加する上で大変重要な情報収集源となる。そこに日本チームの監督として出席するためには、FIM のライセンスを所持している必要があり、私は今回、そのライセンスを現地で取得することになっていたため、まずはライセンスを取得するというミッションがあった。現地入りした翌日から 2 日間講習を受け、講習後に行われるテストに臨んだ。結果は奇跡的に無事合格。ライダーたちとのコースの下見、会場のセッティングなどに遅れが出てしまったが、ジュリーミーティングに出席できなければ、レース中、様々な重要で新しい情報をチームで共有することも出来なかったことを考えると、よしとしよう。トロフィーチームの監督としての私は、自分たち自身でサポートを行うクラブチームをまとめる必要はないが、同じ日本チームとして、レースの情報を伝える義務はあったため、私の役割は、トロフィーチームだけではなく、日本チーム全体における役割だったといえる。



11月11日、6日間のレースがスタートした。選手は朝夕、10～15分の間に自分のバイクを自身で整備しなければならない。今回私は監督として参加したが、メカニックとしての役割も担っていた。選手たちのパーツやガソリン等の準備、4名の選手それぞれに次回ピットインしたときに何をどうするかを正確に聞き、その準備をするという仕事もあった。今回は日本パドック、KTM サービス、レッドモトホンダの3ヶ所に交換するタイヤ等を持って行く作業が必要だった。(タイヤには選手のゼッケン、名前、タイヤのローテーションを示すディスク側をホワイトペンでマーキングをする!) レース中は、各タイムチェックに配置したスタッフが、走行中に選手に起こったトラブルを聞き、パドックに指示をする。その連携により、パーツ調達が可能となり、選手へのサポートが出来る。選手たちは、1周約150kmでそれを2周する間にスペシャルテストが5～7個あり、順番にこなしていく。1日中走り回ってたくたになった選手たちの尻をたくたくようにホテルに送り、洗濯物をメカニックに預け、自分たちもホテルに戻り、そこから2～3時間のジュリーミーティングに出かけ、ホテルに戻り、新しい情報を選手たちに伝えることで、1日が終わる頃には午前0時を回っていることが多かった。



今回、ある選手が1日の持ち時間30分を超えてタイムオーバーで失格かという場面があった。失格となってしまった選手が出た場合、「ハッピータイム」と呼ばれる別の時間に失格取消の申請を行い、正当な理由があれば失格を救済することができる。今回はそれを使い、救済することができた。実は、連日ジュリーミーティングに参加して、毎日当たり前のように「ハッピータイム」という言葉は聞いていたが、その意味がわからないでいた。わからないまま数日が過ぎたある日、ドイツチームのジュリーマネージャーに「ハッピータイム」について聞いてみたところ、大会結果に対する申し立てができる時間だということがわかった。まさかその翌日に、ハッピータイムを使うことになるとは思ってもみなかったが、実際に失格となりかけた選手を救済することができたのは、ドイツチームに聞いておいてラッキーだった。FIMの講習やジュリーミーティングは全て英語で行われる。ISDEの公用語は英語もしくはフランス語なのだ。日本語での説明はない。今回はすべて通訳を同行しての会議だったため、直接自分で伝えることが出来なかったのが残念だった。

最終日6日目のファイナルテストは、前日までモタードだという噂が出たために、選手、関係者ともに混乱していた。最終日にタイヤを交換するかどうかの結論が出たのが、前日のジュリーミーティングで決定した為に、朝のワークタイムでのタイヤ交換となった。

いかにジュリーミーティングでの正確な情報が大切かということ、情報がレースを左右するということを改めて感じた瞬間だった。

チーム全員が自分のパフォーマンスをフルに発揮できることが、結果一番良いチームワークだと言える。選手、メカニック、サポートなどチーム全員が100%の力を出し切ることができるようにチームワークをつくることのできるのが、いい監督なのではないかと思う。

今回も全員が100%の力を出し切れたとは言えないかもしれないが、かなりいい感じで力を出せたのではないかと。監督なんて柄ではないが、今回は自分なりにまあ良い仕事ができただのではないかと思う。近い将来、全員ゴールドメダルが取れるチームを目指して頑張りたい。

